埼玉県衛生研究所報

ANNUAL REPORT
OF
SAITAMA INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No. 19　　1 9 8 5

埼玉県衛生研究所

第 19 号　昭 和 60 年

ま　え　が　き

地方衛生研究所は我が国における公衆衛生行政の第一線の頭脳集団である。衛生研究所の業務は昭和51年厚生事務次官通達によって明文化されている。即ち，1)調査研究，2)試験検査，3)研修，4)情報集計である。

埼玉県衛生研究所の人事は，埼玉県県職員全体の立場を考えなければならないことは勿論であるが，上記の厚生事務次官通達に明記されている業務を鑑みるとき，埼玉県衛生研究所の人事について，私見ではあるが，次の基本的原則が望ましいと考える。

1) 埼玉県衛生研究所員は上記の業務の遂行に，若しくは遂行の補佐に必要な能力を具備することが必要である。

2) 埼玉県衛生研究所の科長は，調査研究，試験検査，研修について科員を指導する能力が要求される。

3) 埼玉県衛生研究所の部長は，調査研究，試験検査，研修について統括する各科員を指導する能力が要求される。そのためには，これらの能力を保持することを示す論文及び学位を具備することが望ましい。

昭和 60年 12月

埼玉県衛生研究所
所長 河内　卓

目　　次

1. 沿　革 …… 1
2. 組織及び事務分掌 …… 2
3. 職　員 …… 3
(1) 職員の配置状況 …… 3
(2) 職員名簿 …… 4
4. 業務報告 …… 6
(1) 疫学部・病理細菌部 …… 6
(2) 化学部 …… 11
(3) 食品衛生部 …… 12
(4) 環境衛生部 …… 16
5. 論　文 …… 19
サルモネラ感染症対策に関する調査研究　第2報 …… 19
高速液体クロマトグラフィー(HPLC)による副腎皮質ホルモンの分析　第1報 …… 26
水道原水中の陰イオン及び非イオン界面活性剤の実態調査（昭和59年度） …… 30
高速液体クロマトグラフィーによる鶏肉及び鶏卵中の合成抗菌剤の分析 …… 35
TLC バイオオートグラフィーによる豚肉中のペニシリン系及びマクロライド系抗生物質の分析 …… 41
ジャガイモにおけるソラニン類の挙動 …… 45
大宮市における蚊の発生消長（1982年～1984年） …… 50
埼玉県下における家屋内ダニ類の生態学的研究 …… 55
埼玉県におけるブユの調査成績 …… 64
6. ノート …… 67
埼玉県における梅毒の血清学的考察　1. STS 陽性率について …… 67
埼玉県におけるヒト及び環境由来サルモネラの血清型と薬剤耐性（1984） …… 70
精米中のメチルブロマイド，エチレンオキサイド及び臭素について …… 74
そう菜類（半製品）の細菌汚染実態調査 …… 76
食品等におけるエルシニアの分布状況調査 …… 78
7. 資　料 …… 81
埼玉県におけるアデノウイルスによる集団かぜの流行について …… 81
秩父郡両神村立両神小学校学童の血色素量による貧血調査　第1報（昭和55年～昭和59年） …… 83
秩父郡両神村立両神中学校生徒の血色素量による貧血調査　第1報（昭和55年～昭和59年） …… 87
秩父郡荒川村立荒川東小学校学童の血色素量による貧血調査　第1報（昭和54年～昭和59年） …… 90
秩父郡荒川村立荒川西小学校学童の血色素量による貧血調査　第1報（昭和54年～昭和59年） …… 94
秩父郡荒川村立荒川中学校生徒の血色素量による貧血調査　第1報（昭和58年～昭和59年） …… 98
海外旅行者の腸管系病原菌検出状況（1984年） …… 100
埼玉県の腸管系病原菌検出状況（1984年） …… 103
感染症情報管理事業に伴う溶血レンサ球菌検査状況　第4報（昭和57年度） …… 105
感染症情報管理事業に伴う溶血レンサ球菌検査状況　第5報（昭和58年度） …… 109
感染症情報管理事業に伴う溶血レンサ球菌検査状況　第6報（昭和59年度） …… 112
災害用備蓄医薬品等の検査結果について（昭和56年度～昭和59年度） …… 115
有害物質を含有する家庭用品の検査　第3報（昭和58年度） …… 117
埼玉県内の水道の水質（昭和59年度） …… 120
母乳中の有機塩素系農薬及びPCB等の継続調査（昭和59年度） …… 123
香辛料の Bacillus cereus 汚染調査 …… 127
8. 紹　介 …… 129
インフルエンザA（H3N2）ウイルスとA/PR/8/34（H1N1）ウイルスの共通抗原について　第2報 …… 129

Hemolytic inhibition of Streptolysin O …… 129
埼玉県の山村地域におけるB型肝炎感染状況調査 …… 129
某乳児院におけるA型肝炎の集団発生について …… 130
埼玉県の妊婦におけるトキソプラズマ抗体について …… 130
過去12年間（1971～1982）の埼玉県における赤痢菌菌型及び薬剤耐性の推移 …… 130
埼玉県のヒト由来サルモネラの分離状況と薬剤耐性（1982～1984） …… 130
海外感染下痢症の腸管病原細菌（1984） …… 131
有害物質を含有する家庭用品の検査結果について …… 131
県東部地域における水道水中のトリハロメタン（THM）の生成状況調査 …… 131
Determination of chlorine in air with the pyridine－pyrazolone reagent …… 131
高速液体クロマトグラフィーによる食肉中のテトラサイクリン系抗生物質及びマクロライド系抗生物質の定量 …… 132
Specific determination of nitrate and nitrite of chicken egg by gas－liquid chromatography with special reference to turnover of these anions in laying hens … 132
Determination of ^{15}N－labelled nitrate and nitrite by mass fragmentography and its application …… 133
高速液体クロマトグラフィーによるエンラマイシンの分析 …… 133
食鳥肉に関する衛生微生物学的研究　第2報 …… 133
食鳥、食鳥処理場および市販食鳥肉の食中毒細菌の汚染状況調査 …… 133
河川水中の発熱性物質と細菌汚染の比較 …… 134
水田皮膚炎の発生状況について（1974～1984） …… 134
マーキング法によるゴキブリの移動と生息数の推定　第3報 …… 134
埼玉県における放射能調査（昭和58年度） …… 135
都市化地域における河川及び農業用用排水路の汚染についての衛生的総合調査 …… 135
9. 著者名索引 …… 136
10. 投稿規定 …… 138

1．沿　革

年　月　日	概　　要	備　　考
昭和22年11月 4 日	衛生部の設置と同時に，警察部所管として明治30年に発足した細菌検査所を衛生部の所管とした。	
昭和25年10月	大宮市浅間町に食品衛生試験所を新設し，食品，環境，衛生獣医などに関する試験検査業務を開始した。	
昭和28年 2 月15日	大宮市吉敷町 1 丁目に庁舎を新築し，細菌検査所と食品衛生試験所の業務を合併して，埼玉県衛生研究所として試験・検査・研究業務を行うことになった。 衛生研究所には，庶務課，病理細菌部（3 科編成），化学部（2 科編成），衛生獣医部（2 科編成）及び生活科学部（2 科編成）を設置した。	庁舎所在地 大宮市吉敷町 1 丁目124番地
昭和28年12月11日	開所式を行った。	
昭和32年12月 5 日	放射能研究室を新築増設した。	
昭和37年 9 月12日	ウイルス研究室を新築増設した。	
昭和40年 5 月 1 日	病理細菌部に 3 科，化学部に 3 科，疫学部に 2 科及び環境衛生部に 3 科を設置し，1 課 4 部（11科）制とした。	
昭和43年11月 1 日	公害研究部（2 科）を設置し，1 課 5 部（13課）制とした。	
昭和44年 5 月 1 日	庶務課を庶務部と改正し，6 部（13科）制とした。	
昭和45年10月 1 日	公害センター設置により公害研究部を廃止し，5 部(11科)制とした。	
昭和47年 4 月 1 日	浦和市上大久保に新庁舎を新築した。	庁舎所在地 浦和市上大久保 639 番地 1
昭和47年 5 月16日	大宮庁舎から移転し，業務を開始した。	
昭和47年 5 月26日	開所式を行った。	
昭和48年 7 月 1 日	食品衛生部（2 科）を設置し，化学部を 2 科とし，6 部（12科）制とした。	
昭和49年 5 月29日	衛生研究所敷地内に動物舎を新築した。	
昭和50年 5 月 1 日	組織改正に伴い，従来の科名を県民になじみやすいように科名変更を行った。	
昭和52年 4 月 1 日	環境衛生部に廃棄物科を設置し，6 部（13科）制とした。	
昭和54年 3 月 8 日	検査棟（放射能研究室）を新築増設した。	
昭和57年 4 月 1 日	組織改正により，環境衛生部衛生工学科，廃棄物科を公害センターに移管し，6 部（11科）制とした。	
昭和60年 4 月 1 日	組織改正により，感染症科を疫学部から病理細菌部へ，ウイルス科を病理細菌部から疫学部へ移管した。	

2. 組織及び事務分掌

- 所長
- 次長
  - 庶務部 (6)
    - 人事，給与，文書事務，予算及び決算事務
    - 物品の出納及び保管事務，職員の福利厚生事務
    - 合同庁舎の維持管理，所内各部の連絡調整事務
    - 他部に属さない事務
  - 疫学部 (5)
    - 疫学科 ― 各種疫学的調査研究
    - ウイルス科 ― ウイルス関係の調査研究
  - 病理細菌部 (10)
    - 臨床病理科
      - 血清学的，生化学的及び血液学的検査研究
      - 臨床病理学的検査研究
    - 細菌科 ― 伝染病及び臨床細菌の検査研究
    - 感染症科
      - 感染症の疫学的調査研究
      - 病原微生物の検査研究
  - 化学部 (10)
    - 薬剤科
      - 医薬品，医薬部外品，化粧品及び家庭用品の調査研究
      - 毒物及び劇物の検査研究
    - 飲料水科 ― 飲料水及び温泉の検査研究
  - 食品衛生部 (15)
    - 食品化学科
      - 食品衛生法第14条に規定された製品検査
      - 食品添加物及び容器包装の検査研究
    - 食品微生物科
      - 食中毒の細菌学的検査研究
      - 乳及び乳製品の検査研究
      - 一般食品の検査研究
  - 環境衛生部 (6)
    - 生物環境科 ― 医動物環境生理に関する調査研究
    - 放射能科
      - 放射性物質に関する調査研究
      - 放射線障害予防規定に関すること

3．職　員

(1)　職員の配置状況

（昭和60年４月１日現在）

部別	職別	事務吏員 部長	事務吏員 主任	事務吏員 主事	事務吏員 計	技術吏員 所長	技術吏員 次長	技術吏員 部長	技術吏員 科長	技術吏員 主任研究員	技術吏員 主任	技術吏員 技師	技術吏員 計	その他の吏員 主任(技)	その他の吏員 主任(技能)	その他の吏員 技師	その他の吏員 技師(技能)	その他の吏員 計	合計 科別	合計 部別
所長						1							1							1
次長							1						1							1
庶務部	部長	1			1														1	6
	事務吏員		3		3									2				2	5	
疫学部	部長																			5
	疫学科									2			2						2	
	ウイルス科								1		1		2		1			1	3	
病理細菌部	部長							1					1						1	10
	臨床病理科								1		2		3						3	
	細菌科								1		2		3		1			1	4	
	感染症科										1	1	2						2	
化学部	部長							1					1						1	10
	薬剤科								1		3	1	5						5	
	飲料水科								1		2	1	4						4	
食品衛生部	部長							1					1						1	15
	食品化学科								1		5	1	7		1			1	8	
	食品微生物科								1		3	1	5				1	1	6	
環境衛生部	部長							1					1						1	6
	生物環境科										3		3						3	
	放射能科								1			1	2						2	
現在員合計		1	3		4	1	1	4	8	2	22	6	44	2	3		1	6		54

(2) 職員名簿

（昭和60年4月1日現在）

部名	科名	職名	氏名	事務分担	備考
		所長	河内　卓	所内統括	医師
		次長	興津知明	所長補佐	
庶務部		部長	吉田　亘	部内統括，人事，財産管理事務	
		主任(事)	奥田東蔵	庁舎管理，公有財産事務，経理，文書事務	
		主任(事)	山腰祥子	給与，福利厚生事務	
		主任(事)	関根賢二	予算，経理，物品事務	
		主任(技)	松本茂男	庁用車運転管理	
		主任(技)	和田義信	庁舎管理，動物飼育管理	
疫学部	疫学科	主任研究員	唐戸哲哉	疫学的調査研究	医師
		主任研究員	中村雅隆	環境汚染の生物学的調査研究	
	ウイルス科	科長	村尾美代子	科内統括，ウイルス学的検査研究	薬剤師
		主任(技)	戸谷和男	ウイルス学的検査研究	薬剤師
		主任(技能)	酒井正子	試験検査補助	
病理細菌部		部長	奥山雄介	部内統括，細菌学的検査 血清学的調査研究	獣医師
	臨床病理科	科長	早野厚子	科内統括，生化学的検査，血清学的検査研究	薬剤師
		主任(技)	河橋幸恵	生化学的検査，血清学的検査研究	薬剤師
		主任(技)	野本かほる	生化学的検査，血清学的検査研究	臨床検査技師
	細菌科	科長	大関瑤子	科内統括，細菌学的検査研究	
		主任(技)	首藤栄治	細菌学的検査研究	獣医師
		主任(技)	山口正則	細菌学的検査研究	獣医師
		主任(技能)	島田サト	試験検査補助	
	感染症科	主任(技)	松岡　正	細菌学的，血清学的調査研究	衛生検査技師
		技師	大島まり子	細菌学的，血清学的調査研究	臨床検査技師
化学部		部長	吉岡勝平	部内統括，医薬品等検査研究 水質検査研究	
	薬剤科	科長	森本　功	科内統括，医薬品等検査研究	
		主任(技)	石野正蔵	医薬品，毒劇物等検査研究	薬剤師
		主任(技)	野坂富雄	医薬品，毒劇物等検査研究	薬剤師
		主任(技)	笹本和彦	医薬品，毒劇物等検査研究	薬剤師
		技師	高橋邦彦	医薬品，毒劇物等検査研究	薬剤師
	飲料水科	科長	鈴木敏正	科内統括，水質検査研究	
		主任(技)	広瀬義文	水質検査研究	薬剤師
		主任(技)	鈴木　章	水質検査研究	
		技師	竹澤富士雄	水質検査研究	薬剤師

部　名	科　名	職　名	氏　名	事務分担	備　考
食品衛生部		部　長	岩崎久夫	部内統括，食品等細菌学的検査研究	獣医師
	食品化学科	科　長	能勢憲英	科内統括，食品化学検査研究	薬剤師
		主任(技)	星野庸二	食品化学検査研究	
		主任(技)	田中章男	食品化学検査研究	
		主任(技)	菊池好則	食品化学検査研究	
		主任(技)	斉藤茂雄	食品化学検査研究	
		主任(技)	堀江正一	食品化学検査研究	
		技　師	斉藤貢一	食品化学検査研究	薬剤師
		主任(技能)	土屋みつ子	試験検査補助	
	食品微生物科	科　長	徳丸雅一	科内統括，食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主任(技)	砂川　誠	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主任(技)	正木宏幸	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		主任(技)	板屋民子	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		技　師	青木敦子	食品汚染細菌検査研究	獣医師
		技師(技能)	川口千鶴子	試験検査補助	
環境衛生部		部　長	服部昭二	部内統括	獣医師
	生物環境科	主任(技)	武井伸一	寄生虫原虫等検査研究	
		主任(技)	浦辺研一	寄生害虫昆虫等検査研究	
		主任(技)	高岡正敏	寄生虫原虫等検査研究	獣医師
	放射能科	科　長	中沢清明	科内統括，放射能測定，分析調査研究	
		技　師	川名孝雄	放射能測定，分析調査研究	

著 者 名 索 引

太字は筆頭者を示す。
* は当所職員以外の者。

A
会田　忠次郎* 134
青木　敦子　76 **78** 133
新井　朝晴* 130
新井　康俊*　83 87 90 94 98 129 130

F
藤本　義典　132 133 134 134
藤野　訓男* 133
藤田　昌彦* 133

H
服部　昭二　50 55 134 135
早川　勝吉* 123
早野　厚子　83 87 90 94 98 130
逸見　てる子* 130
広瀬　義文　30 120 131 131
堀江　正一　**41** 45 132 **133**
星野　庸二　41 **132** 133

I
石野　正蔵　26 115 117 131
板屋　民子　76 78 **133**
岩崎　久夫　19 35 41 45 74 76 78
123 127 132 133 133 134

K
梶島　和子*　19
金子　昌一郎* 123
菅野　三郎*　**131**
加藤　博通* 132
河橋　幸恵　**67** 83 87 90 94 98 129
130
川名　孝雄　135
菊池　好則　**35**
木村　久夫* 131
今野　純夫* 133
小沼　博隆* 133
倉田　浩* 133

M
槇　励* 131
正木　宏幸　76 78 133 **134**
松田　勝彦* 131
松岡　正　70 100 103 130 131
森本　功　26 **115** **117** 131
村尾　美代子　**81** **129**

N
長井　伸行* 129
内藤　静江* 131
中田　時夫*　19 131
中村　雅隆　**135**
中沢　裕之* 133
中沢　清明　**135**
野本　かほる　83 87 90 94 98 129 130
130
能勢　憲英　35 41 45 74 123 132 132
133 133
野坂　富雄　26 115 117 131

O
荻野　淑郎*　19
大沢　美津子* 131
大島　英雄*　**130**
大島　まり子　105 109 112
大関　瑶子　70 **100** **103** **130** 130 131
岡田　正次郎　81
興津　知明　26 30 115 117 120 **131** 131
131 135
奥山　雄介　**19** 67 70 83 87 90 94
98 100 103 **105** **109** **112** **129**
129 130 130 130 130 131

小野沢光太郎* 131

S
斉藤　勲*　30
斉藤　貢一　41 **45**
斉藤　茂雄　**123**
三瓶　憲一* 133

笹本　和彦　**26** 115 117 131
島　良治* 123 131
品川　邦汎* 133
白石　久明* 19
首藤　栄治　**70** 100 103 **130** 131
砂川　誠　19 76 78 **127** 133
鈴木　章　30 120 131
鈴木　敏正　**30** **120** **131**

T
高畠　英伍* 133
高橋　邦彦　26 115 117 131
高岡　宏行* 64
高岡　正敏　**55** **64**
武井　伸一　50 **134** 135
竹沢　富士雄　30 120
田村　文子* 55
田中　章男　**74** **132** **133**
徳丸　雅一　19 **76** 78 127 **133** 133 134 135
戸谷　和男　81

U
浦辺　研一　**50** **134** 135
宇佐美博幸* 134

Y
山口　正則　70 100 103 130 **131**
吉田　謙二* 30 131

埼玉県衛生研究所報投稿規定（昭和60年7月改正）

1　所報は，埼玉県衛生研究所で行った試験検査業務，調査研究，資料等を掲載する。投稿は，本所職員に限る。ただし，本所職員以外の共著者がある場合には，その所属を＊印を用いて欄外に入れる。

例　＊中央保健所

2　衛生研究所報の内容

1）沿革
2）組織及び事務分掌
3）職員
4）業務報告
5）総説　　各種論文に基づく総説。
6）調査研究　論文，ノート，短報。印刷物として未発表であり，新知見を含むものとする。
7）資料　　調査資料，統計。
8）紹介　　過去1年間の他誌発表論文及び学会発表の内容紹介。
9）著者名索引
10）投稿規定

3　調査研究の形式

形式は，序論（緒言，はじめに），方法（実験方法，調査方法，材料及び方法），結果（成績，結果及び考察），要約（まとめ），謝辞，文献の順とする。

4　紹介の形式

他誌発表のものは次の例による。

例　題　名
　　氏　名
　　日本公衛誌（1974）：21（10）123－129.
　　要　旨（400字以内）

学会発表（口頭）のものは次の例による。

例　題　名
　　氏　名
　　要　旨（400字以内）
　　日本薬学会第105年会（1984）：金沢

5　原稿の書き方

1）原稿は，所定の原稿用紙A4判（20×20字）に横書きで記載する。枚数は原則として，総説40枚，論文30枚，ノート15枚，短報8枚，資料10枚とする。ただし，規定枚数は，表，図及び写真を含む。
2）調査研究及び資料の原稿には表題と著者名をつける。見出しは，原稿の真中に，上下1行をあけて書く。各見出し後の細部の各項目には，次の順序に数字をつける。1, 2,……; 1），2）……; (1), (2)……。
3）数字はすべてアラビア数字を用い，文章は原則として現代かなづかいで，当用漢字を使用する。用字用語等については，原則として埼玉県発行「文書事務の手引」による。
4）文章中の句読点（，。），かっこ（　）は1字に数え，ー（ハイフォン）は区画の中に明瞭に記入する。
5）イタリック体となる字の下には，―――― をつける。　（例：E. coli ）
6）数量の単位は，m, cm, mm, μm, nm, l, ml, kg, g, mg, ng, pg などを用いる。
7）表，図の原稿及び写真は，別に，専用原稿用紙，または同型の紙に貼りつけ，本文の後につづり合わせる。表，図及び写真を入れる位置は，本文中の右欄外に矢印（←表1）で指定する。表及び図に関する注釈は，本文中には入れない。

例：表2　分離菌株の薬剤耐性
　　（表の上の中央に記載）
　　図3　果実中の残留農薬
　　（図の下の中央に記載）

Table 及びFig.などの英字を用いる場合は，表及び図全体について英字を用い，英文タイプ，またはレタリングを使用する。

8）図は，A4判以下の大きさの平滑な白紙または青色グラフ用紙に黒インキで書く。図の印刷は，原則的には著者のものを用いるが，図中の文字につき活字の使用を希望することもできる。また，図のトレースを希望することもできる。図の大きさに希望があるときは，大体の大きさを指定する。
9）引用文献は，山本[1]，赤痢菌[2-5]のごとく1区画を与えて右肩に示し，最後に一括して列記する。
10）文献の記載は次の例による。

例：

1）高畠　英伍（1981）：畜水産用薬物の現状と問題点，衛生化学，27，127－143.
2）Ames, B. N.（1979）: Identifying environmental chemicals causing mutations and cancer, Science, 204，587－593.
3）善養寺　浩，寺山　武（1978）：微生物検査必携　細菌真菌検査　第2版，264－276，日本公衆衛生協会（東京）.

11）脚注は，＊印を用いて欄外に記入する。

6　原稿の提出及びその取扱いについて

1）原稿は，所属部長を経て編集委員に提出する。提出された原稿については，編集委員会で検討を加える。
2）編集委員会は，所長，次長及び各部から選出された編集委員で構成し，次長を委員長とする。

3）校正時の原稿の改変は認めない。どうしても必要なものは正誤表による。

4）初校及び二校は著者，三校（以後）は編集委員が行う。

所報編集委員

（アルファベット順）

岩崎　久夫
河内　　卓
森本　　功
村尾　美代子
中沢　清明
奥津　知明*
奥山　雄介
吉田　　亘
（* 編集委員長）

埼玉県衛生研究所報

第 19 号

昭和61年3月印刷
昭和61年3月発行

編集及び発行所　埼玉県衛生研究所
浦和市上大久保東 639－1　〒338
電話　0488－53－6121

印刷所　株式会社　太陽美術
浦和市常盤1－3－9
電話　0488－24－3261